



みなみの風

【発行日】
令和8年5月13日
【発行者】学校長

《学校教育目標》 自ら学び、心豊かに、たくましく生きる子の育成
学校生活における合言葉 「生き生きわくわく」と「3つの『あ』」

大型連休が明けました。日によって天候が大きく異なり、予定の変更を余儀なくされたこともあったかと思われませんが、各ご家庭においては、どのようにお過ごしになられたのでしょうか？

大変遅くなりましたが、4月6日の着任式で、児童代表の言葉に、6年生がどのような気持ちで開成南小を創っていきたいか、決意が示されたのでここで紹介します(一部抜粋です)。

開成南小学校は、一人一人が、どんなに小さなことでも、みんなのためになることをし、みんなが「すてきさん」になることを目指して生活しています。「すてきさん」になるための一つは、「あいさつ」です。朝登校したときから、先生や友達に、元気な「あいさつ」をすることを心がけています。

その積み重ねで、開成南小学校は、朝から明るく、元気な一日が始まるのです。新任の先生方とも、「あいさつ」をして、さらに明るく、元気な雰囲気を作っていきたいと思っています。

さらに、わたしたちは、「ふれあい」を大切にしてきました。学年も関係なく、助け合ったり、一緒に遊んで、仲を深めたりしてきました。

そうした「ふれあい」を先生方ともして、助け合い、学び、さらにみんなが気持ちよく毎日を過ごせる学校生活を作っていくのを、とても楽しみにしています。(原文のまま)

本校に着任して3年目を迎えますが、子どもたちはこの開成町のことがとても大好きなのだと感じるとともに、開成南小は自分たちで創り上げていく学校であることを自負しているように思います。

もちろん、楽しいことばかりではなく、個性が異なる集団なので、トラブルもあり、悩みもあることは間違いありません。ただ、それにどう向き合うか、どう折り合いをつけていくかが社会に出たときに必要な力なので、その場面で適切な支援ができる「チーム開成南小」でありたいと思います。

1年生を迎える会【4月28日】

～自分たちで創り上げる児童集会の価値～



先日発足した委員会ですが、そのうちの一つである企画委員会の大きな役割として、「1年生を迎える会」を企画し、準備を進めるというものが 있습니다。正直、この時期に実施するのは大変だと思いましたが、計画的に進めてきたことがよくわかる会が、先日開催されました。

内容の具体については、お子さんとおしてお聞きいただければと思いますが、工夫した内容だったため、1年生も、そして在校生もとても喜んでいました。

児童集会も含め、委員会活動やクラブ活動、各種学校行事は総じて「特別活動」と位置付けられ、標準時数が決まっている教科等とは異なり、学校独自の取組や時数設定が可能となっています。本校のこれまでは、どちらかというと教師主導の取組が多かったところですが、今年度は今まで以上に子どもたちの主体性を生かしていきたいと考えています。それは、決められたことはしっかりと行える子どもたちなのですが、それ以上のことにはなかなか及ばないという実態があると捉えているためです。別の言い方をすれば、臨機応変にその場にに応じて行動するということが難しいように感じるので、まずは責任をもてるような環境を整え、チャレンジを推奨したいと思います。大人が具体的な言動をすることだけが支援ではなく、あえて何もしないように装い、「待つ」ことも確かな支援です。リーダーシップやフォロワーシップ等の価値付けを、特別活動をおして行ってきたいと思います。



入場前の1年生と6年生



プレゼントを渡す2年生



ドキドキしながら入場する1年生

先輩になったんだね ～1年生を導く2年生～

2年担任の先生が、「2年生が1年生を連れて学校探検をはじめます。校長室を紹介したいという子がいますので、ご対応をお願いします。」と伝えてくれました。私は、「いよいよこの時期がきたな。今年はどうな様子かな。」と楽しみに思いました。

本校は、1年生は6年生とペアを組んでいるので、実は2年生との関わりが若干少ない状況にあります。入学式でお迎えの言葉を立派に伝えたとはいえ、今回は、先輩デビューともいうべき、大きな学びといえます。緊張して説明の声が小さくなったり、恥ずかしくて目をあわせられなかったりする様子もうかがえましたが、今できることを精一杯出せていたようです。1年生がとてもワクワクしていました。さすが2年生！



5月16日は学校公開 ～ぜひお越しください！～

学校の多くの時間は授業の時間です。今年度も、いわゆる「校務分掌」といわれる分担にもとづき、昨年度とは異なる取組が始まっており、現在はそれを定着させる時期になります。定着させるには一定程度の時間が必要なので、今はまだ道半ばのことが多いと思われませんが、子どもたちの頑張りをぜひご覧いただければありがたく思います。

また、当日午後は引取り・引渡し訓練が行われます。災害緊急時を想定して行うものですが、年1回の実施となります。改めてご家庭において確認の共有をお願いします。それでは、当日のお越しをお待ちしております。

令和7年度発行の本校PTAだよりが、足柄上郡PTA連絡協議会主催の広報紙コンクールの審査において、見事、最優秀賞を受賞しました。なお、WEB版も同時に最優秀賞を受賞しましたので報告いたします。今後、県レベルの審査が行われるとのことです。おめでとうございます。



全国学力・学習状況調査 ～求められている資質・能力とは～

4月23日に、小学校においては6年生を対象に全国学力・学習状況調査が実施されました。日頃に行うテストとは問われ方が若干異なり、多くの問題で「考える力」を求められるのがこの調査の特徴です。

本校で、指導方法の研究の窓口となっている「算数科」の解答の状況を即座に確認してみたところ、全国的に苦戦している「文章等で自分の解答を説明する力」は備わってきていることを再確認できました。日頃から、自分の考えをノートやタブレットを用いてまとめることが習慣化してきていることがその一因であると考えられます。

文章によって問われることが多いというのが本調査のもう一つの特徴ですが、課題としては、「問われていることを読み取る力」がやや弱いと思われます。

算数においては、原理・原則となる「基本単位」の理解がとても重要です。おそらく学んだ直後は分かったと実感したのですが、習得には至っていなかったと推察されます。6年間をとおしたスパイラルな学びを、改めて構築していきます。



集中して取り組む6年生

子育てアラカルト⑱ ～居場所～

人は誰でも、自分らしくいられて、安心して過ごせる「居場所」を求めています。「居場所」さえあれば、心の安定が期待できますし、「明日も行きたくなる学校」の実現に近づきます。

ここで、「居場所」について、神奈川県スクールカウンセラーアドバイザーの方のたよりに以前、記載されたことを引用させていただきます。

『居場所は『居なければならない場所』『居られる場所』『居たい場所』の3つに分けることができます。ここでいう『居場所』とは、子どもたちが安心して自分らしく過ごせる空間や人間関係のこと、すなわち『居たい場所』を指します。学校生活の中でも、この『居場所』は非常に重要な役割を果たしています。学校や教室が『居なければならない場所』でしかない、不登校やいじめのリスクが高まります。

学校内の居場所である教室は、自分の学びの場であると同時に、仲間と過ごすことで自分の存在が認められる空間です。図書室は静かに自分の世界に没頭できる場所であり、校庭は自由に伸び伸びと体を動かし、友人との絆が育まれる場所でもあります。保健室や相談室も、子どもたちが安心して悩みを打ち明けられる『居場所』です。

『居場所』があることで子どもの自己肯定感が高まり、困難な状況に直面しても自分で乗り越える力が蓄えられます。また、仲間との共感や協力をおして、心の成長や社会性も養われます。その積み重ねが、子どもたちの人生を豊かにし、未来へ希望や夢をつないでいきます。」

安心できる居場所は誰もがほしいですね。学校の各場所が、選択肢の一つとなれるとよいのですが……。